

うらがわら・柴又 交流フェア'07

東京浦川原会 会長 小菅俊信

十一月十八日(日)深秋の中、天高く曇り一つなく澄み切った晴天の中、大勢の人出で盛大に開催された、うらがわら・柴又交流フェアは今年で十五回目を歴史ある柴又帝釈天経寺境内にて開催、セレモニーに始まり、各イベントや多数の参加者でスタートした。

我が東京浦川原会もこのイベントに参加した、東京浦川原会ふる里交流フェア「コーナ」[出合いの場]では、多数の浦川原出身者が訪れてくれた、茲では浦川原なまりが飛び交い昔懐かしい人との再会に楽しい懇親と交流の場となった。

柴又との交流の始まりは終戦の時から繋がりがあった。当時学童疎開で柴又小学校の生徒百数十名を浦川原村で受け入れたのが始まりです。

その後柴又小学校と下保倉小学校での交流が始まり、冬には浦川原の雪とス

キーを体験し、浦川原村の各小学校も柴又の地訪れて学習体験し、学童同士の交流が盛んに行われたことが始めてでした。その後平成二年から浦川原村、浦川原商工会と柴又自治会が中心になり、柴又帝釈天経寺境内を借用して毎年十一月に開催され今日に至っている。

現在では上越市・葛飾区の協賛をえて年々盛会に輪が広がった。毎年恒例となったことで東京都民を始め各近隣からお客様が大勢訪れて、浦川原の名産品「自然薯そば・地酒・いなか餅・ぜんまい」等を楽しみに参加している方々に感謝申し上げます。

会場では梅酒の鏡割り地酒と、紅白もちの振る舞い、つくたてのもちとあんころもちには人の行列となつた。また、うらがわら鶴喜舞の皆さんによる「よさこいソーラン」と柴又青少年少女による「大江

戸ダンス」の競演で会場を盛り上げてくれた。

特産品販売では、浦川原大地の山の恵みが満載、前日夕採りの新鮮野菜、前日から準備され夜中に運び込まれたチマキ、押し寿司等々の物産品が店出狭しと並べられ買い物客で大賑わいでした。

おふくろの店での昔懐かしい、すいとんが寒いなか体の芯まで温まり、雪国ふる里の郷愁とおふくろの味を思いだし、また格別な哀愁を感じました。

実行委員の皆様、そして出店してフェアを盛り上げて頂いた皆様、大変お疲れ様でした。参加者の皆様来年の再会を楽しみにしています。

東京浦川原会では、来年も「うらがわら・柴又交流フェア」には力強く応援致します。



小菅俊信さん



よさこいソーラン (うらがわら鶴喜舞の皆さん)



「寅さん」のそっくりさんも応援参加